

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	川崎市文化財団グループ	
施 設 名	川崎市アートセンター	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	10,206	(千円)
	公 演 事 業	6,844 (千円)
	人 材 養 成 事 業	2,556 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	806 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	しんゆりシアター「桜の園～四幕の喜劇～」※	令和2年11月28日～ 12月6日	＜出演＞山本郁子、真那胡敬二、前東美菜子、堀文明、齊藤尊史、名取幸政ほか ＜スタッフ＞作：チーホフ、演出：五戸真理枝、翻訳：安達紀子、美術：池田ともゆき、照明：坂口美和ほか ※ライブ配信は89名視聴	目標値	1,160
		川崎市アートセンター アルテリオ小劇場		実績値	589
2	日本児童・青少年演劇劇団協同組合ベイビーシアタープロジェクト「KUUKI」※	令和2年8月20、21日	＜出演＞かとうかなこ、松田紀子、はらだまほ ＜スタッフ＞演出：アリツィア・ルブザック、美術：バーバラ・マレッカ、音楽：かとうかなこ、照明：真壁知恵子	目標値	122
		川崎市アートセンター アルテリオ小劇場		実績値	49
3	親子で楽しむ春時間2020 ダリル・ビートン「四角い世界」※	中止 (令和2年5月10日)	＜出演＞ダリル・ビートン ＜スタッフ＞演出：ダリル・ビートン、デザイナー：ジョナサン・ヴァン・ビーク、ドラマトゥルグ：ヴィッキー・アイルランド	目標値	270
		川崎市アートセンター アルテリオ小劇場		実績値	中止
4	京楽座「不忠臣蔵より酒寄作右衛門」※	中止 (令和2年12月20、21)	＜出演者＞中西和久 ＜スタッフ＞作：井上ひさし、演出：ふじたあさや、音楽：高橋明邦、音響：鈴木茂、照明：田島康、講談指導：神田松鯉ほか	目標値	290
		川崎市アートセンター アルテリオ小劇場		実績値	中止
5	パラアート2020夏企画「野鴨」※	令和2年7月26日	＜出演＞榎本トオル、増子仁美、鈴まみ、数見陽子、中江央、崎山莉奈ほか ＜スタッフ＞原作：ヘンリック・イプセン、構成演出：小野寺修二、テキスト：山口茜ほか ※7/24「音のワークショップ」参加者5名、「身体表現ワークショップ」参加者10名	目標値	195
		川崎市アートセンター アルテリオ小劇場		実績値	80
6	しんゆり寄席※	令和2年7月～ 令和3年3月	＜出演＞世話人：桂米多朗、初音家左橋 主な真打出演者：柳家花緑（二階ぞめき）、三遊亭萬橘（佐々木政談）、桂竹丸（明智光秀伝）、三遊亭圓丸（紺屋高尾）ほか ※各回、4名（真打2名、二つ目・前座各1名）で実施。	目標値	1,540
		川崎市アートセンター アルテリオ小劇場		実績値	365
7	しんゆりジャズスクエア※	令和2年8月～ 令和3年3月	＜出演＞g. 田辺充邦、org. 西川直人、ds. 井川晃、ts. 岡淳、as. 近藤和彦、tb. 池田雅明、p. 守屋純子、b. 安カ川大樹、ds. 小山太郎、tp. 三上貴大ほか ＜演目＞9月公演「ジャズの巨人 デュークエリントンを迎える旅」 11月公演「Tribute to WES MONGOMERY Legend of Jazz Guitarist」 1月公演「いつまでも色褪せない コールポーターの名曲を唄う」 2月公演「温かくそして懐かしい ジョージ・シアリングサウンドのタベ」ほか	目標値	692
		川崎市アートセンター アルテリオ小劇場		実績値	387

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	しんゆりシアター劇団わが町第10回公演「グスコードリの伝記」※	令和3年2月6日、7日	<出演>劇団わが町劇団員(所属48名うち出演23名)/客演 古舘一也、森山蓉子/演奏 山田由起子 <スタッフ>原作:宮沢賢治、脚本・演出:ふじたあさや(劇団わが町芸術監督)、音楽:宮沢賢治、岡田和夫・藤原豊、美術:池田ともゆき、照明:坂本義美、音響:山北史朗、演出補:大谷賢治郎(劇団わが町芸術監督代行)、歌唱指導:森山蓉子、衣装:大谷恵理子、ステージング:酒井麻也子、舞台監督:野口岳大 ※劇団参加者23名	入場者: 815/劇団	参加者: 53
		川崎市アートセンター アルテリオ小劇場		入場者 278名/ライブ配信 149名	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	夏休みワークショップフェスティバル 2020※	令和2年8月1、2、8、9日	① えんげき体験「舞台でつながれ〜！」 グループ1、2:8月8日(土)、9日(日) 講師:河田園子ほか ② ことばをあそぼう!「ことばはおもちや」 グループ1、2:8月1日(土)、2日(日) 講師:ふじたあさやほか	目標値	110
		川崎市アートセンター アルテリオ小劇場		実績値	参加者 33名 (①16名、②17名) 発表会見学 65名 (①36名 / ②29名)
2	しんゆりアウトリーチ※	令和3年2月20日	<しんゆりアウトリーチ ノンバーバルワークショップ IN 桐光学園> 講師:原田亮、森山蓉子	目標値	延べ 200
		桐光学園		実績値	25
3	小劇場×映像館コラボレーション企画 vol.3「カタル楽しさカタルシス 浪曲と活弁」※	令和3年2月23日	<出演>玉川奈々福(浪曲師)、坂本頼光(活動映画弁士)、沢村美舟(曲師) <内容>活弁上映:「血煙高田の馬場」「旗本退屈男」「逆流」「小雀峠」/浪曲:「仙台の鬼夫婦」	目標値	290
		川崎市アートセンター アルテリオ小劇場		実績値	89

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

「川崎市文化芸術振興条例」（平成 17 年施行）を受け、平成 19 年に開館した川崎市アートセンターは、地域の文化芸術の創造発信拠点を目指しています。現在、川崎市では 2020 オリンピック・パラリンピック、2024 年市政 100 周年を貫くパラムーブメントを推進しており、「第 2 期川崎市文化振興計画」（平成 26 年策定、平成 31 年改訂版を策定）、「かわさきパラムーブメント第 2 期推進ビジョン」（第 2 期平成 30 年～令和 4 年）を踏まえ、当館もミッションを設定し、運営しています。

◆社会的役割（ミッション）

「創る」	舞台芸術作品の創造発信拠点として継続的に事業を創る。
「育てる」	次世代の文化芸術の担い手である児童・青少年、地域の文化芸術の愛好者を育てる。
「楽しむ」	国内外の優れた舞台芸術の鑑賞機会を創る。
「つなぐ」	人とまちがつながる拠点としての劇場として、地域の実演家や芸術団体との連携を行う。地域の多くの高齢者の生きがいを創る。
「ひろげる」	地域でも文化芸術の裾野を広げるため、文化芸術の出会いの場を届ける

◆地域の特性

川崎市の中でも特に麻生区は「芸術によるまちづくり」構想を進めてきた地域です。

麻生区は川崎市全 7 区のなかで「老年（65 歳以上）、年少（14 歳以下）の人口割合は最も多い」

芸術祭や映画祭などのソフトが多く、その会場となり、芸術関係団体・関連団体との連携を強めています。

○令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防を踏まえ、客席収容率の縮小、緊急事態宣言による日程延期などを随時検討し、規模を縮小しつつ事業を行いました。とくにベイビーシアターや子どもたちがメインターゲットであるワークショップは保育園や学校の状況をリサーチし、保健所の助言をうけ、細やかな感染症対策を取り実施しました。ただ、公演事業 2 件が中止となり、（新型コロナウイルス感染症拡大による中止：1 件、出演者急病による中止：1 件）鑑賞機会の提供は減少となりましたが、**事業全体としては、コロナ禍で都内で舞台を楽しむなくなった高齢者や遊びに出かけられない子どもたちなど幅広い年代が、地元で舞台芸術に触れる機会を継続的に持つことができました。**

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

◆**文化的意義**：コロナ禍ではありましたが、PCR 検査等の感染症対策を実施し、しんゆりシアター「桜の園—四幕の喜劇—」では新進気鋭の演出家・五戸氏による新訳による上演が行えた他、小劇場×映像館コラボレーション企画では「浪曲と活弁」という**意欲的な企画の貴重な鑑賞機会を提供することができました。**

◆**社会的意義**：予定通りではなかったが、パラアート 2020 夏「野鴨」やベイビーシアター「KUUKI」リラックス公演で障がいの有無に関わらず観客が楽しめる鑑賞機会を確保し、**ワークショップではコロナ禍で大きく環境が変わってしまった子どもたちの貴重な自己表現の場を提供し、地域住民に「開かれた劇場」として運営することができました。**

◆**経済的意義**：**助成金により、事業を中止せずできるだけ延期の方向で進むことができ、地域住民が文化芸術に触れる機会を確保できました。**また、新型コロナウイルス感染症対策の充実が可能となった他、当館で初めてライブ配信にも着手することで、コロナ禍での新しい舞台芸術へのアプローチに挑戦できました。

○「地域住民が舞台芸術を楽しむ機会を無くさない」という考えを元に事業を実施。鑑賞だけでなく、参加・体験機会も含め、お客様へのアンケートなどから生活の中での文化芸術の必要性を痛感しました。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

【公演事業】

<目標>	<指標>
①舞台芸術を通じた新しい価値観の提供	①プロの俳優・スタッフ陣を上演する「しんゆりシアター」の入場者数増加を目指します。
②児童・青少年を舞台芸術の出会いの場の充実を図る	②児童・青少年向けのすべての入場率 80%を目指します。
③地域住民にとって「ハードルの低い劇場」となる	③通年事業であるしんゆりジャスクエア、しんゆり寄席の幅広い年代の観客開拓。例えば、入場率が常に低い 30～40 代の入場率 10%を目指します。

事業番号-3, 4 (「四角い世界」「不忠臣蔵」) が中止となり、<目標>①②の充実まではできませんでした。<指標>①については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、客席収容率を下げても達成できませんでした。とはいえ、ライブ配信という新たな観劇手段を試みることで収獲できたことは収穫でした。<指標>②は事業番号-2 (「KUUKI」) のみとなりましたが一般公演は 90%の入場率となり達成。<指標>③は事業番号-5 (しんゆり寄席) については家族連れが増え、30-40 代が 23%まで増加しました。コロナ禍という状況でも、継続的に事業を実施できたという点では<目標>①②③ともに概ね達成できたといえます。

【人材養成事業】

<目標>	<指標>
①市民劇団の継続的な活動と充実	①入場率 90%を目指し、劇団の顧客を獲得する。
②テーマ性を持った作品づくり	②劇団員の満足に留まらない活動、上演作品の質の向上を目指し、観劇理由を演目内容で選ぶ観客を 20%まで増やす。
③市民劇団の地域での役割の拡大	③当館のアウトリーチ活動へ、劇団員の地域の舞台芸術の担い手として延べ 35 名の参加を目標に。

事業番号-1 (劇団わが町「グスコブドリの伝記」) では作品を通して、宮沢賢治の人生に触れ「誰かのために生きる」というテーマを発信することができました。また、劇団活動としては新型コロナウイルス感染症拡大のなか、市民活動としての芸術活動の必要性についても考える機会となり、劇団員とプロのスタッフともに意見を交わし、劇団の方向性を定め、公演を実施したことで、集団としての成熟を見ることができました。入場率は 82% (+ライブ配信) となり、<指標>①は達成できませんでした。コロナ禍という状況を踏まえれば、<目標>①②については概ね達成したと考えます。<目標><指標>③で予定していたアウトリーチ活動への参加は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、今年度は不参加とし達成できませんでした。

【普及啓発事業】

<目標>	<指標>
①地域住民へ舞台芸術との出会いの場の提供	①ワークショップの内容の進化とともに、参加者の受け入れをミュージカルワークショップ 60 名、ことばのワークショップ 50 名とする。
②参加・体験型事業を通して舞台芸術の多角的なアプローチで興味をもってもらおう	②アウトリーチの内容の充実と 5 件への件数増加を目指す。 ③映像館とのコラボレーション企画の充実と入場率 70%を目指す。

事業番号-3 では<指標>③として「活弁上映と浪曲」を取り上げ、16mm フィルム上映も含め、鑑賞機会の少ない舞台芸術に触れる機会を持つことができ、<目標>①については達成できたと考えます。

また、参加・体験型事業 (事業番号-1, 2) では、コロナ禍でもより安全に配慮しつつ、内容・運営を模索し、規模縮小となりましたが、<目標>②は辛うじて継続的な実施ができました。<指標>①については内容を変更し、「舞台でつながれ WS」は 16 名、「ことばの WS」は 17 名の参加者数に留まり達成はできませんでした。<指標>②、アウトリーチについては、学校関連では部外者の立ち入り禁止等があり、予定していた規模での実施ができませんでした。<指標>③については収容率 50%での実施ではありましたが、入場率 92%となりました。

○鑑賞型事業ではロビーでの密を避けるため、客席を長時間開放し筆記用具を配布したことで、アンケート回収率が平均 45.1% (H31 年度は平均 15.2%) 増加しました。さらに満足度も 94.1% (H31 年度は 91.8%) に増加。生の舞台の鑑賞機会提供を評価するコメントも多くいただきました。アンケートによると、ワークショップの「また (ぜひ) 参加したい」は 91% (H31 年度 86%)、アウトリーチでは 96% (H31 年度は 88.3%) と満足度の高い事業が行うことができました。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

◆事業期間：全体を通して計画通り実施できませんでした。

令和2年度は9事業を実施しました。(公演事業-3,4は中止)うち4事業は計画通り実施。残り5事業(公演事業-2,6,7/人材養成事業-1/普及啓発事業-2)については新型コロナウイルス感染症拡大の影響により規模縮小、延期日程での実施となりました。4,5月の休館期間、その直後の事業が大きく影響を受けることとなりました。

◆事業費：全体をとって計画通り実施できませんでした。

令和2年度事業費は以下の通りです。

(単位：円)

	予算	決算	差異
公演事業	22,418,000	18,093,530	4,324,470
人材養成事業	7,148,000	6,478,944	669,056
普及啓発事業	2,811,000	1,282,375	1,528,625
計	32,377,000	25,854,849	6,522,151

【公演事業】

2事業(事業番号-3,4)の中止となりましたが、実施した事業については大きく規模を縮小せずに実施したために80.7%程度の縮小に留まりました。

【人材養成事業】

新型コロナウイルス感染症拡大によるPCR検査費用、消耗品費用、ライブ配信費用を捻出するために舞台費の大幅削減を行い、いかに安全に確実に実施するかを最優先事項とし実施しました。

【普及啓発事業】

事業番号-2は学校での活動が多かったが、休校や部外者の施設内への立ち入り制限などがあり、当初予定していた規模での実施はできませんでした。事業番号-3では、「参加者一緒の昼食機会をなくす」「歌をやめる」ことによる規模・内容変更で、人件費・音楽経費等を減額し実施しました。

◇収入：全体を通して計画通り実施できませんでした。

全体として、鑑賞型事業では客席収容人数を開催時期ごとのガイドラインに準じて収容率を最大50%まで縮小し実施したことで、非常に厳しい状況でした。公演事業番号-1では神奈川県芸術活動再開加速化事業補助金により新型コロナウイルス感染症関連の補助金を得たことで、感染症対策を充分にとることができ、キャスト・スタッフにとっても安全な運営をすることができました。参加型事業では参加者の密を避けるために、募集人数を減らして実施したことで、収入が大きく落ち込みました。

◆入場者総数

(単位：人)

	小劇場(貸館含む)	映像館	施設合計
平成30年度	23,331	61,157	84,468
平成31年度※	21,518	58,837	80,355
令和2年度※	4,199	30,347	34,546

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響があり入場者数は激減しました。平成31年度3月から令和3年3月まで、貸館キャンセルは41件(実施は12件のみ)施設休館、客席収容率の制限なども大きく影響しました。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

川崎市は平成16年より「音楽のまち・かわさき」、平成20年より「映像のまち・かわさき」を推進しています。当館のある川崎市麻生区は行政だけでなく、地域住民の強い後押しもあり、昭和57年の麻生区誕生当初より「芸術によるまちづくり」構想をすすめてきました。この機運のなか、平成19年に、地域の文化芸術の拠点となるべく当館は誕生し、以下のような事業と運営を展開させながら、さらなる発展を目指しています。

◆地域のニーズを見据えた事業

当館がある川崎市麻生区は川崎市内全7区のなかで老年（65歳以上）が23.1%と、また年少人口（14歳以下）が13.2%といずれも全7区中1位となっています。

「芸術によるまちづくり」構想のなか、当館では高齢者でも気軽に楽しめる事業（公演事業-6,7）、児童・青少年や若い家族と一緒に楽しめる事業（公演事業-2,3,5、人材養成-1、普及啓発-1,2）、本格的な質の高い舞台芸術に触れることができる事業（公演事業-1,4、普及啓発事業-3）をバランスよく配し、様々な地域住民が文化芸術に出会うことができることを目指しています。



ベビーシアタープロジェクト「KUUKI」/撮影：関口淳吉



しんゆりシアター「桜の園」/撮影：関口淳吉

◆継続的参加型事業＜劇団わが町＞

2012年より立ち上げた市民劇団・劇団わが町（人材養成事業-1）では日常生活の中に演劇活動を持つというだけでなく、学校や家庭以外の第三の居場所を提供することにもつながり、地域社会の中での新たなコミュニティとなっています。

年齢制限を設けていないのも大きな特徴です。これは同年代だけでなく幅広い年代がお互いに連携し、理解し協力し合う機会を提供したいためです。特に児童・青少年にとっては学年を超えて人と関わることは貴重な機会となっています。定期的なオーディションを行い、現在は9歳から80歳まで50人が所属し活動しています。



劇団わが町第10回公演「グスコブドリの伝記」/撮影：関口淳吉



◆専門性の高いスタッフにより継続的な事業運営

小劇場・映像館を併設する当館にはそれぞれに各ジャンルで長く活動するディレクターを配し、勤続年数が高い職員も多いことから、地域性や施設への理解をもって運営しています。

地域のニーズ、当施設の存在意義を理解したスタッフによる事業運営により、鑑賞型事業における、企画立案やキャスティング、買い公演の作品選定についても、地域住民へ質の高い文化芸術との出会いの場を提供しています。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

川崎市アートセンターは2007年10月に開館し、2022年には開館15周年を迎えます。現在の指定管理者：川崎市文化財団グループは2012年4月より運営しています。まもなく10年となる運営期間のなかで、地域の中の施設の周知、主催事業の発信を継続的に行うことで、当館は地域に根付いてきました。

地域の文化芸術の発展につながったと認められるかについては、以下のように考えています。

◆地域のソフトとの連携・協力

麻生区では「芸術のまちづくり」構想のもと、行政・芸術団体・地域の人材が連携し様々な芸術祭やイベントを実施してきました。

1994年に誕生したKAWASAKI しんゆり映画祭では共催事業として、施設提供を行い、ボランティアスタッフの研修への協力を行っています。

また、2009年よりスタートした総合芸術祭、川崎・しんゆり芸術祭（アルテリッカしんゆり）は当館の特定事業に位置付けられており、事務局機能を担っています。また、演劇に適した小劇場を活用し、メイン会場としての活用だけでなく、企画委員会から参加し、演劇企画を中心に総合芸術祭の名にふさわしいラインナップを担っています。公演事業-2, 3, 4は芸術祭参加作品でした。ハード・ソフト両面から地域の文化芸術活動を中心的存在として支える存在になりつつあります。

◆ステークホルダーとの連携

川崎市アートセンター運営協議会（年2回実施）では地域の教育関係、文化関係の有識者との意見交換を行っています。また指定管理グループ（4者）および、設置者である川崎市と定例会議を月1回行い、連携に努めています。さらに麻生区を中心とした地域の企業、大学、文化団体の文化芸術の交流を目的とした「あさお芸術・文化交流カフェ」の会場として、幅広く施設を活用しています。

◆地域住民の芸術活動の入り口として

文化芸術を鑑賞するだけでなく、参加・体験する機会を提供しています。

ワークショップ、アウトリーチ（普及啓発事業-1.2）は演劇体験だけでなく、演劇を活用したコミュニケーション、相互理解を学ぶ機会を提供しています。

アートボランティアとして文化芸術活動を支えたいという地域住民も多く、川崎・しんゆり芸術祭やしんゆり映画祭を支えています。当劇場の運営にも積極的に参加していただき、施設の事業への理解を深める機会としています。

文化芸術を日常生活の中に持つことで生まれる豊かな心を育むため、鑑賞機会の提供、参加型事業の提案、ボランティア活動の受け入れ等、様々なアプローチで文化芸術と地域住民をつないでいます。



えんげき体験「舞台でつながれ〜!」/撮影：関口淳吉



ボランティアスタッフによる運営の様子

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

令和2年度は11事業のうち、中止となった2事業を除き、9事業については新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、規模縮小、内容の修正を行いながら実施することができましたが、当初設定した目標をすべて達成することは叶いませんでした。しかし、「変化する状況下において、どのように事業を実施するか」「どうすれば実施できるか」について、時勢を見つつ、職員・キャスト・スタッフ（市民劇団員含め）とともに試行錯誤を繰り返し、実現していく「学びの一年」となりました。

(3) 有効性でも触れましたが、アンケート回収率が平均45.1%（H31年度は平均15.2%）に増加しました。さらに満足度も94.1%（H31年度は91.8%）に増加したことにもあるように、規模は縮小しましたが、コロナ禍でも来場された観客の満足度の高い事業を実施することができたと考えます。

このような状況のなか、昨年度の経験を活かしながら、さらなる施設の機能強化を目指すため、以下の点について、見直し・改善を進めていきます。

◆人材面

○川崎市文化財団グループは2012年4月より指定管理者となり、第二期、第三期と継続的に運営をおこなっています。長期的な事業展開により「劇場の特色を打ち出すこと」が可能となり、劇場の周知にもつながります。

○地域のニーズを理解した劇場、映像館の専門知識をもつスタッフの継続的雇用を行っており、サービスの安定的な提供が可能となります。

▶職員の外部研修への参加を増やし、施設管理・接客・企画制作等の研鑽を進め、スタッフの質の向上を目指します。また技術スタッフは安全管理等の研修参加や資格取得にも努めます。

▶市民劇団・劇団わが町には芸術監督：ふじたあさや氏がいますが、劇場の事業全体については小劇場ディレクターを中心に企画立案しています。事業全体の質の向上、新たなクリエイターとの出会い等を目指し、演劇界でさまざまなネットワークをつなぎ、情報収集を行い、豊かな目で事業選定する仕組み作りが必要な段階にきていると考えます。

◆財政面

○客席数195席の小劇場での事業実施は収支的に常に厳しい状況にあります。その中で地域住民にいかに劇場に足を運んでもらうかが課題です。とくに成長過程で文化芸術との出会いが不可欠な児童・青少年に向けた事業は高額なチケット収入を見込めません。

○川崎市麻生区は住宅地であり企業が少ないエリアです。加えて小劇場（195席）と映像館（111席）の小規模な複合施設である当館は、事業規模も小さいため広告収入、寄付金を求めることが厳しい状況です。

▶継続的に事業を実施するために、企画内容の向上を目指しながら、さらなる経費の見直し、収支のバランスの検証を行い、助成金の継続的獲得を目指します。

▶大規模なスポンサーは難しくても、小口でも応援できる寄付金制度などによる、当館のサポーターを獲得する仕組みづくりを検討していきます。

◆その他課題

○当館は川崎市最北部である麻生区に位置します。交通の便が悪いものの川崎南部も含めた川崎全市＜縦の南北ライン＞だけでなく、交通アクセスのよい、隣接する東京都多摩・町田エリア＜横の東西ライン＞への広報の充実などが不可欠です。

▶多くの集客や周知を目指し、事業ごとのターゲットを想定しつつ、広域への広報活動等が必要と考えます。

▶アンケートの分析を行い、未開拓の観客層の掘り起こしや広報への活かし方を検討します。

○地域の大学・学校関連、福祉施設等との連携を深めることで、アウトリーチ活動の広がり、チケット販売拡張につながります。

▶より多くの幅広い世代の地域住民とつながるためのリサーチによる情報発信、地域の状況に合わせた事業を行いたいと考えます。参加型事業は新たな人とのつながりも生むので、積極的に進めていきたいと考えます。